

2022 年度（対象：2019～2021 年度） 自己点検・評価シート

| | |
|--------|--------|
| 自己評価組織 | 教育学研究科 |
|--------|--------|

基準 1 **理念・目的**

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

| 項目 No. | 自己点検・評価項目 | 自己点検・評価の視点 | 自己評価 |
|--------|--|---|------|
| 0101 | 大学の基本理念・使命・教育目的を適切に設定していますか。また、それを踏まえ、学部・研究科の教育研究上の目的を適切に設定していますか。 | (2) 学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的は、教育組織の特色を明確にしたものですか。 | A |
| | | (3) 学部(学科)・研究科(専攻)の育成する人間像は、明確ですか。 | A |
| | | (4) 学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的と大学の基本理念・使命・教育目的は、関連性があるものになっていますか。 | A |
| 0102 | 大学の基本理念・使命・教育目的および学部・研究科の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員および学生に周知し、社会に対して公表していますか。 | (1) 学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的や人間像は、適切な媒体を使って明示していますか。 ・明示媒体(例えば学生便覧やホームページなど)との記述の齟齬 | A |
| | | (2) 教職員、学生、社会に対する刊行物、ホームページ等により大学の基本理念・使命・教育目的、学部・研究科の教育研究上の目的等が周知および公表されていますか。 ・構成員(教職員および学生)への周知 ・社会に対しての公表 | A |

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

| |
|---|
| <p>現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。</p> <p>0101 大学の基本理念・使命・教育目的を踏まえ、教育系大学院としての教育学研究科(教育学専攻)の教育研究上の目的や育成する人間像を明確に設定している。例えば教育学専攻のDPに示す「学び続けることができ、教育・保育現場でリーダーシップをとることができる」は大学理念の「信頼され、あてになる人間」「自立心・公益心」に、「幅広い総合的な視野と学識を有し」は「豊かな教養」に、「グローバル化に対応できる的確な判断力」は「国際的な視野」に、「教育学・保育学、教育心理学、教科教育学領域に関する学識・技術を身に付け」は「専門能力・実行力」に対応している [0101a p. ⑥、p. ⑳] [0101b] [0101c]。</p> <p>0102 教育学研究科の教育研究上の目的や人間像に関しては、学生便覧やホームページで学生や社会に対して公表し</p> |
|---|

| | |
|--|--------------------------------|
| <p>ている [0101a] [0101b] [0101c]。 0102 2019年度の自己点検・評価で示した今後の改善・向上の内容を受け、学部・研究科ポスターの学部棟内の設置数を増やし、教育研究上の目的等の普及を行った [0102a]。 0102 大学院担当教職員に対しては、大学院教授会（研究科委員会）配付資料に研究科の「学修教育目標」を記載するという方法で周知している [0102b]。</p> | |
| <p>長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの</p> | |
| 項目 No. 0102 | 「学修教育目標」の周知方法（独自資料を活用） [0102b] |
| 項目 No. | |
| <p>課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点</p> | |
| 項目 No. 0102 | 学生への「教育研究上の目的」等の周知 |
| 項目 No. | |

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

| | |
|---|--|
| <p>対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない</p> | |
| 0102 | 自己点検・評価の結果にもとづき、学部棟におけるポスターの掲示数を増やした [0102a]。 |
| 0102 | 教職員への周知のために、教育研究科委員会の配付資料に「学修教育目標」を記載している [0102b]。 |

<今後の改善・向上計画>

| 項目 No. | 課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む） |
|--------|--|
| 0102 | 学生への研究科（専攻）の「教育研究上の目的」等の周知方法について、大学院WGで検討する。 |
| | |

2022 年度（対象：2019～2021 年度） 自己点検・評価シート

| | |
|--------|--------|
| 自己評価組織 | 教育学研究科 |
|--------|--------|

基準 2 内部質保証

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

| 項目 No. | 自己点検・評価項目 | 自己点検・評価の視点 | 自己評価 |
|--------|-------------------------------------|--|------|
| 0203 | 方針および手続きに基づき、内部質保証システムは有効に機能していますか。 | (5)外部評価(学内のピアレビュー受審を含む)を自己点検・評価に取り入れていますか。 | B |

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

| | | | |
|-------------|---|--|--|
| 現状説明 | *「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。 | | |
| 0203 | 2019年度に受審した学内自己点検・評価ピアレビューおよび2020年度、2021年度の自己点検・評価活動で、研究科の教育・研究に関する質保証について検証している [0203a] [0203b] [0203c]。 | | |
| 0203 | 点検・評価を行うに際しては点検・評価水準を高め、教職員の質保証への意識を深めるため、自己点検・評価WGを設置し、教育学研究科委員会において点検を行った [0203d] [0203e]。 | | |
| 0203 | 本研究科には定期的に文部科学省の調査が入るため、これを意識して日常的に全体にかかわる点検、見直しを行っている(教職課程、教員の専門性など) [0203f] [0203g]。 | | |
| 長所・特色 | < 箇条書き > *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの | | |
| 項目 No. 0203 | 教職課程認定大学等実地視察および教職課程再課程認定への対応 | | |
| 項目 No. | | | |
| 課題事項 | < 箇条書き > *改善すべき点、向上すべき点 | | |
| 項目 No. 0203 | 外部評価の充実 | | |
| 項目 No. | | | |

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果(【留意点】等)への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

< 改善・向上の進捗状況 >

| | | | |
|------------|---|--|--|
| 対象年度における取組 | *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない | | |
| 0203 | 教育学研究科の現状を認識しさらに質の向上を図るため、現代教育学部・教育学研究科の教員全員で自己点検・評価活動を行った [0203d] [0203e]。 | | |

<今後の改善・向上計画>

| 項目 No. | 課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む） |
|--------|------------------------|
| 0203 | 学部と連動し、事業計画への外部評価予算の申請 |
| | |

2022 年度（対象：2019～2021 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織 教育学研究科

基準 4 教育課程・学習成果（1）

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

| 項目 No. | 自己点検・評価項目 | 自己点検・評価の視点 | 自己評価 |
|--------|--|---|------|
| 0401 | 授与する学位ごとに、学位授与の方針（DP）を定めて、公表していますか。 | (1) 課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針（DP）の適切な設定（授与する学位ごと）を行い、公表をしていますか。 ・当該学位にふさわしい学習成果の設定 ・学位授与の方針（DP）の設定 | A |
| 0402 | 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施の方針（CP）を定めて、公表していますか。 | (1) 授与する学位ごとに、教育課程の体系、教育内容を備えた編成・実施の方針の設定になっていますか。 | A |
| | | (2) 授与する学位ごとに、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を備えた編成・実施の方針の設定になっていますか。 | A |
| | | (3) 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施の方針を社会に対し、公表していますか。 | A |
| | | (4) 学位授与の方針（DP）と教育課程編成・実施の方針（CP）は適切な関連性となっていますか。 ・「学位授与の方針（DP）」⇔「教育課程の編成・実施の方針（CP）」との整合 | A |
| 0403 | 教育課程の編成・実施の方針（CP）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。 | (1) 教育課程の編成・実施の方針（CP）と教育課程の整合性はとれていますか。 | B |
| | | (2) 教育課程の編成にあたっての順次性および体系性への配慮をしていますか。（ナンバリング、カリキュラムマップ） | B |
| | | (3) 単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしていますか。 | B |
| | | (4) 個々の授業科目の内容および方法は適していますか。 | B |
| | | (5) 授業科目の位置づけ（必修、選択等）は適切ですか。 | B |

| | | | |
|------|---|--|---|
| 0403 | 教育課程の編成・実施方針（CP）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。 | (6) 各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 【学士課程】 初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 【修士課程、博士課程】 コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等 | B |
| | | (8) 学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。 | B |

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

| | |
|--|--|
| 現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。 | |
| 0401 | 学位（修士）授与方針（DP）については、研究科で方針を定め学生便覧とホームページに明示している [0401a p. 20] [0401b]。 |
| 0402 | 教育課程の編成・実施の方針（CP）については、学生便覧とホームページに明示している [0401a p. 20] [0401b]。さらに CP で示した内容を具現化した科目を「基幹科目」「専門科目」に分けて学生便覧に示している [0401a p. 91]。CP と同じホームページに、教育学専攻の DP を示し両者の対応関係が分かるようになっている [0401a p. 20]。 |
| 0403 | 学生便覧に示した履修に関連する情報を踏まえ、研究テーマや取得希望免許状をもとにコースワークを進めるように、入学年度当初のオリエンテーションで指導している [0403a]。リサーチワークについては、院生の研究テーマを指導可能である教員が指導教員（主指導・副指導）となり、修士論文をまとめるプロセスで長期的にリサーチワークを実施できる体制が確保されている [0403b]。 |
| 長所・特色 <<箇条書き>> * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの | |
| 項目 No. | 特になし |
| 項目 No. | |
| 課題事項 <<箇条書き>> * 改善すべき点、向上すべき点 | |
| 項目 No. 0403 | 大学院生にとってより魅力的なカリキュラム構成の検討 |
| 項目 No. | |

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

| | |
|---|--|
| 対象年度における取組 * 成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない | |
| 特になし | |

<今後の改善・向上計画>

| | |
|--------|---|
| 項目 No. | 課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む） |
| 0403 | 大学院 WG で大学院生にとってより魅力的なカリキュラム構成について検討する。 |
| | |

2022 年度（対象：2019～2021 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織 教育学研究科

基準 4 教育課程・学習成果（2）

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

| 項目 No. | 自己点検・評価項目 | 自己点検・評価の視点 | 自己評価 |
|--------|---------------------------------------|--|------|
| 0404 | 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じていますか。 | (1) 各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るため、1年間または学期ごとの履修登録単位数の上限設定等の措置を講じていますか。 | 学部のみ |
| | | (2) シラバスに次の内容を組み込んでいますか。また、授業はシラバスどおりに行われていますか。 ・ 授業の目的、達成目標、学習成果の指標、授業内容および方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法および基準等の明示 ・ 授業内容とシラバスとの整合性の確保 | B |
| | | (3) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法を講じていますか。 | A |
| | | (4) 授業の編成および管理運営は適切に行っていますか。 【学士課程】 ・ 授業形態に配慮した1授業あたりの受講者数になるように授業の編成を行っていますか。 ・ 履修指導等のガイダンスは適切に実施していますか。 【修士課程、博士課程】 ・ 研究指導計画(研究指導の内容および方法、年間スケジュール)を明示していますか。また計画に基づく研究指導を行うように取り組んでいますか。 | A |
| 0405 | 成績評価、単位認定および学位授与は適切に行っていますか。 | (1) シラバスに掲げている「達成目標」に基づき、成績評価がなされていますか。 ・ シラバス記載の「達成目標」「成績評価方法」に基づく成績評価 | B |
| | | (2) 既修得単位の認定は、明確な定めに基づき適切に行われていますか。 ・ 規程等に基づく単位認定のプロセス | B |
| | | (3) 成績評価の客観性、厳格性を組織的に確認していますか。 | C |

| | | | |
|------|------------------------------|---|---|
| 0405 | 成績評価、単位認定および学位授与は適切に行っていますか。 | (4) 卒業・修了要件を明確に定めていますか。 | B |
| | | (6) 学位論文審査がある場合、学位論文審査基準が明確に示され、かつ公表されていますか。 | B |
| | | (7) 学位審査および修了認定の客観性および厳格性を確保するためにどのような措置を施していますか。 | B |
| | | (8) 学位授与に係る責任体制および手続きは明確に示されていますか。 | B |
| | | (9) 適切な学位授与を行っていますか。 | B |

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

| | |
|--|---|
| 現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。 | |
| 0404 | シラバスには、授業の目的、成績評価等が記載されており、毎年シラバス点検の機会に点検活動を実施している[0404a]。 |
| 0404 | 年間スケジュールに関しては、春の履修オリエンテーションで「学事カレンダー」を配付し丁寧に説明している。指導教員は学事スケジュールに従い、学生と連絡を取りながらさらに詳細な計画を立て授業を実施し、指導を行っている[0404b]。 |
| 0405 | すべての授業の成績評価方法・単位認定基準は、達成目標とともに個々の授業のシラバスに明記されている。また、成績評価に対して疑問がある学生は、定められた期間内であれば教員に確認を願い出ることができ、成績評価・単位認定が適切に行われるようにしている[0405a]。 |
| 0405 | 修了要件は学生便覧に明示している[0405b pp. 89-92]。 |
| 0405 | 修士学位審査の中心となる修士論文審査に関しては、様式や提出手順などを学生・教員に明示し、審査の基準・審査手順等を便覧等に記載している [0405b] [0405c] [0405d]。 |
| 0405 | 2021 年度には学位審査、修了認定の客観性および厳格性をさらに確保するため「教育学研究科学位論文評価項目（案）」を作成し、第9回教育学研究科委員会で審議・承認された [0405e] [0405f]。 |
| 長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの | |
| 項目 No. | 特になし。 |
| 項目 No. | |
| 課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点 | |
| 項目 No. 0405 | 成績評価の客観性、厳格性を組織的に確認 |
| 項目 No. | |

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

| | |
|---|---|
| 対象年度における取組 * 成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない | |
| 0405 | 学位審査、修了認定の客観性および厳格性をさらに確保するために、2021 年度に「教育学研究科学位論文評価項目」を制定した[0405e][0405f]。 |

<今後の改善・向上計画>

| 項目 No. | 課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む） |
|--------|------------------------|
| 0405 | 成績評価の客観性・厳格性を確認する方法の検討 |
| | |

2022 年度（対象：2019～2021 年度） 自己点検・評価シート

| | |
|--------|--------|
| 自己評価組織 | 教育学研究科 |
|--------|--------|

基準 4 教育課程・学習成果（3）

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

| 項目 No. | 自己点検・評価項目 | 自己点検・評価の視点 | 自己評価 |
|--------|--|---|------|
| 0406 | 学位授与の方針（DP）に明示した学生の学習成果を IR データも踏まえて適切に把握し、評価していますか。 | (1) 学生の学習成果を測るための指標を定め、成果を確認していますか。 ・学習成果を測るための評価方法や評価指標（特に専門的な職業との関連性が強いものにあつては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの） | A |
| | | (2) 成績分布、試験放棄（登録と受験の差）、進級などの実績を学部・学科として把握していますか。 ・学習成果に関する情報の把握と共有 | 学部のみ |
| | | (3) 学習成果を把握および評価するために、どのような方法を用いていますか。 《学習成果の測定方法例》 ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取 | B |
| 0407 | 教育課程およびその内容、方法の適切性について、学位授与の方針（DP）、教育課程編成・実施の方針（CP）に基づき、IR データも活用して定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。 | (1) 適切な根拠資料に基づく定期的な自己点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用 | B |
| | | (2) 自己点検・評価の結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。 | B |

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

| | |
|--|---|
| 現状説明 | * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。 |
| 0406 学生の学習成果に関してはシラバスに記載されている指標に基づき評価している。専門分野（研究分野）も多様であることが教育学研究科の特色であるが、そのため具体的な評価方法は授業によって大きく異なる。また、教育学研究科の大学院生がこれまで1～3名程度であり、質的な評価を用いることが可能で効果的であるため、多くの授 | |

| | |
|--|--|
| 業では対話を重視した質的な評価を行っている。 | |
| 0406 修士論文作成に関連する学習成果を把握・確認するために、1年生は9月と2月に、2年生は9月に学部・研究科教員が参加のもと中間発表会を開催している [0406a] [0406b]。 | |
| 0407 教育学研究科は、幼稚園教諭専修免許状および小学校教諭専修免許状を付与することが可能な教職課程を有しており、大部分の授業がこの教職課程に関連した授業となっている。そのため、文部科学省が求める教育課程に応えられるように教育課程の自己点検・評価を継続的に実施し、文部科学省の通知があった場合は適切に対応できるようにしている [0407a]。 | |
| 長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの | |
| 項目 No. 0407 | 文部科学省の実地視察 |
| 項目 No. | |
| 課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点 | |
| 項目 No. 0406 | 学習成果を把握する方法を確立する。 |
| 項目 No. 0407 | 教育学研究科における教育課程の独自性の向上と、その内容・方法の適切性について検討する仕組みをつくる。 |

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

| | |
|--|------------------------|
| 対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない | |
| 0407 | 大学院 WG で教育課程の点検を継続的に実施 |

<今後の改善・向上計画>

| 項目 No. | 課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む） |
|--------|---|
| 0406 | 学習成果を把握するための方法について、大学院 WG で検討する。 |
| 0407 | 教育学研究科における教育課程の独自性の向上と、その内容・方法の適切性について検討する。 |

2022 年度（対象：2019～2021 年度） 自己点検・評価シート

| | |
|--------|--------|
| 自己評価組織 | 教育学研究科 |
|--------|--------|

基準5 学生の受け入れ

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

| 項目 No. | 自己点検・評価項目 | 自己点検・評価の視点 | 自己評価 |
|--------|---|--|------|
| 0501 | 入学者受入れの方針(AP) を定めて、公表していますか。 | (1) 学位授与の方針(DP)および教育課程編成・実施の方針(CP)を踏まえた方針となっていますか。 | A |
| | | (2) 明示媒体によって、記述に齟齬はありませんか。 ・入試要項とホームページ等の媒体間の記述の統一 | A |
| | | (3) 社会に対し公表していますか。 | A |
| | | (4) 下記内容を踏まえた入学者受入れの方針(AP) の設定となっていますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法 | B |
| 0502 | 入学者受入れの方針(AP) に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施していますか。 | (1) 入学者受入れの方針(AP) と入試形態は整合していますか。 ・求める学生像と入試形態との整合 | B |
| | | (2) 入学者受入れの方針(AP) に基づき、大学教育を受けるための能力・適性等を判定できる入学者選抜の方法を採用していますか。 ・教育課程の編成・実施の方針(CP) と学生募集方法、入学者選抜方法の連関 ・入学者選抜において透明性を確保するための措置 | B |
| | | (3) 授業その他の費用や経済的支援に関する情報を提供していますか。 | B |
| | | (4) 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備はなされていますか。 | B |
| | | (5) 公正な入学者選抜を実施していますか。 | A |
| | | (6) 入学希望者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施していますか。 | B |

| | | | |
|------|--|--|---|
| 0503 | 適切な定員を設定し、入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していますか。 | (1) 入学定員および収容定員の適切な設定と在籍学生数を管理していますか。 【学士課程】 ・ 入学定員に対する入学者数比率 ・ 編入学定員に対する編入学生数比率 ・ 収容定員に対する在籍学生数比率 ・ 収容定員に対する在籍学生数の過剰または未充足に関する対応 【修士課程、博士課程】 ・ 収容定員に対する在籍学生数比率 | B |
| 0504 | 学生募集および入学者選抜は、入学者受入れの方針(AP)に基づき、IRデータも活用し、公正かつ適切に実施されているか定期的に検証を行っていますか。 | (1) 学生募集や入学者選抜方法の適切性について検証していますか。 ・ 学部内委員会等において根拠資料に基づいた定期的な検証 | B |
| | | (2) 自己点検・評価の結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。 | B |

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

| | |
|--|---|
| 現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。 | |
| 0501 | 入学生受け入れ方針、教育課程、修了認定・学位授与方針等については、毎月の研究科 WG で確認するなどして一貫性を保っている。入試関連資料の記載内容も、毎年、大学院 WG で確認している [0501a] [0501b]。 |
| 0501 | 入学生に求める学力水準等は、入学希望者に対する個別面談等の機会において、其々の大学院で研究したいテーマに対応しながら説明している。 |
| 0502 | 入試システムおよび入試に関しては、研究科内で入学試験に対応するチームを編成し、アドミッションポリシーに基づいた入試問題の作成、面接の実施を行っている。また、公正・公平な入試となるようにしている。 |
| 0503 | 入学者を確保するための努力はしているが、入学定員に比べて受験者数・入学者数は定員未満であり、更なる対策が必要である。 |
| 0504 | 学生募集に関しては、教育学研究科と関連が深い現代教育学部の学生を対象にした説明会を実施したり、研究科に関する話を、学部担当の教員が卒業研究指導生に話したりする際に、大学院の入学生受け入れ方針を確認している [0504a]。 |
| 0504 | 現役大学院生と学部学生の交流する場を設け、いつでも気軽に大学院生研究室を訪問できるような雰囲気づくりを大学院生と教員が行うようにしている。 |
| 長所・特色 <<箇条書き>> * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの | |
| 項目 No. 0501 | 入学希望者に対する入学前個別面接の実施 |
| 項目 No. | |
| 課題事項 <<箇条書き>> * 改善すべき点、向上すべき点 | |
| 項目 No. 0503 | 更なる定員の充足 |
| 項目 No. | |

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果(【留意点】等)への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

| |
|---|
| 対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない |
| 0504 コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、密になることを避けるため、個別に現役大学院生の体験談を聞く場を設定した。その結果、学部学生から、新たに大学院への入学生を得ることができた。 |

<今後の改善・向上計画>

| 項目 No. | 課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む） |
|--------|--------------------------------|
| 0504 | 学部4年生の学生に対する大学院の説明会の更なる広報活動の実施 |
| 0504 | 社会人院生獲得のための更なる広報活動の実施 |

2022 年度（対象：2019～2021 年度） 自己点検・評価シート

| | |
|--------|--------|
| 自己評価組織 | 教育学研究科 |
|--------|--------|

基準6 教員・教員組織

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

| 項目 No. | 自己点検・評価項目 | 自己点検・評価の視点 | 自己評価 |
|--------|--|--|------|
| 0602 | 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制していますか。 | (1) 大学全体および学部・研究科等ごとの専任教員数は、適切ですか。 | A |
| | | (2) 教育理念・目的を実現できる教員組織を編制していますか。(方針等に基づく組織編制の明確化) ・教員組織の編成に関する方針と教員組織の整合性 ・各学位課程の目的に即した教員配置 ・国際性、男女比 ・特定の範囲の年齢に偏ることのないバランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員(教授、准教授、講師または助教)の適正な配置 ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・教員の授業担当負担への適切な配慮 | A |
| | | (3) 教養教育の運営体制を整備していますか。 | B |
| 0603 | 教員の募集・採用・昇格等を適切に行っていますか。 | (1) 教員人事関連規程が整備され、適切な手続きによる運用をしていますか。 ・教員の募集・採用・昇格等に関する規程の整備および手続きの設定 | B |
| | | (2) 規程等に従った適切な教員人事(募集、採用、昇任等)を実施していますか。 | B |
| 0604 | ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげていますか。 | (1) FD活動を組織的に実施していますか。 | A |
| | | (2) 教員の教育活動、研究活動、社会活動等を評価し、その結果を活用していますか。 | A |
| 0605 | 教員組織の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。 | (1) 適切な根拠資料に基づく定期的な自己点検・評価を実施していますか。 | B |
| | | (2) 自己点検・評価の結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。 | A |

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

| | |
|---|-----------------------|
| 現状説明 *「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。 | |
| 0602 教育学、教科教育学、社会福祉等の各分野に教員が適切に配置されており、教育学研究科が DP として示している教育・研究目的を実現できる教員組織となっている[0602a]。 教授・講師等の配置、国際性・男女比・年齢比に関しては、現代教育学部の人事計画に依存する事柄であることから、研究科単独での対応はできない。研究科担当教員の資格・適性に関しては、大学院教員資格審査教授会で審査し適正化を図っている。 | |
| 0604 現代教育学部と共催するなどして、年度目標を決めた FD・SD 活動を組織的に実施している[0604a][0604b]。 | |
| 0605 教育学研究科の教員組織に関しては、大学院教育の対象となる学生が合計3名と少ないことから、大学院 WG で教育学研究科に関する活動の企画・運営を実施している。そのため、組織化された活動とは言い難く、組織としての適切性に課題がある。しかし、大学院 WG による集中的な対応を実施することにより、大学院生の多様な研究志向性に柔軟かつ迅速に対応することができ、院生の研究活動や教育を滞りなく進めることができていることから、大学院の規模に適した現実的な運営である。自己点検・評価に関しては大学院 WG メンバーを中心に、これまでに実施してきた点検評価の結果と現状とを比較するなどして、日常の大学院教育の中で実施している[0605a]。 | |
| 長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの | |
| 項目 No. | (なし) |
| 項目 No. | |
| 課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点 | |
| 項目 No. 0605 | 小規模な大学院の運営に関する業務等の組織化 |
| 項目 No. | |

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果(【留意点】等)への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

| | |
|--|------------------------------|
| 対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない | |
| 0605 | 大学院生の人数・研究分野に対応した教育・支援組織の検討。 |

<今後の改善・向上計画>

| 項目 No. | 課題事項と改善・向上方策(到達目標を含む) |
|--------|---------------------------------|
| 0605 | 大学院 WG による対応と組織対応のメリット・デメリットの検証 |
| | |

2022 年度（対象：2019～2021 年度） 自己点検・評価シート

| | |
|--------|--------|
| 自己評価組織 | 教育学研究科 |
|--------|--------|

| | |
|-----|------|
| 基準7 | 学生支援 |
|-----|------|

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

| 項目 No. | 自己点検・評価項目 | 自己点検・評価の視点 | 自己評価 |
|--------|---|---|-------|
| 0702 | 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備していますか。また、学生支援は適切に行っていますか。 | (2) 学生の修学に関する適切な支援を実施していますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育 ・正課外教育 ・留学生等の多様な学生に対する修学支援 ・障がいのある学生に対する修学支援 ・成績不振の学生の状況把握と指導 ・留年者および休学者の状況把握と対応 ・退学希望者の状況把握と対応 | A |
| | | (4) 学生の生活に関する適切な支援を実施していますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・学生の相談に応じる体制の整備 ・ハラスメント（アカデミック、セクシュアル、モラル等）防止のための体制の整備および啓発活動 ・心身の健康維持・増進および安全への取り組み ・生活支援面において、方針の目的（安全で安定した学生生活を送るための基盤整備等）の支援 | B |
| | | (5) 学生の進路に関する適切な支援を実施していますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の実施 ・学生のキャリア支援を行うための体制（学部との協力・連携を含む）の整備 ・進路選択に関わる支援やガイダンスの実施 ・キャリア支援講座などの実施 | B |
| | | (6) 学生の進路に関する適切な支援を実施していますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・博士課程における、学識を教授するために必要な能力を培うための機会の設定または当該機会に関する情報提供 | 研究科のみ |

| | | |
|--|---|---|
| | (7) インターンシップは十分に実施していますか。 【学士課程】 ・充実したインターンシップの実施 【修士課程、博士課程】 ・実施可能な体制の整備 | B |
| | (9) 学生の要望に対応した学生支援を適切に実施していますか。 キャリア支援、保健管理、スポーツおよび文化活動の強化 | B |

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

| | |
|--|--|
| 現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。 | |
| 0702 | 教育学研究科への入学生は、社会人・日本語を母語としない学生など多様である。そのため、学生の支援ニーズも多様である。そこで、指導教員が修士論文指導を行う前後の時間などを利用して、短い間隔で学生から修学等に関する支援ニーズの聞き取りを行い、その内容を大学院 WG 構成員が共有するなどして積極的に対応している。また、進路に関しても、学部学生と同様に大学のキャリア支援課と連携した支援を実施している [0702a]。 |
| 0702 | 多様な背景を持つ学生、院生に対応したキャリア支援活動を行っている。日本語を母語としない中国人学生に対しては、外国籍生徒に対する日本語・学習支援に関するボランティア、インターンシップ活動の支援を行っており、その成果として、外国籍生徒日本語・学習支援団体からの感謝状、および、2021 年度学長表彰を得た。当該学生は大学院入学後に引き続き外国人生徒に対する日本語・学習支援ボランティアをフィールドとした研究、そして、その領域への就職を目指している [0702b] [0702c]。 |
| 0702 | 教育学研究科院生の博士課程進学希望に対し、博士課程進学先を大学院生との個別相談を行うことで進学支援を行い、同院生は、2021 年 4 月に他大学大学院情報学研究科博士課程へ入学した。 |
| 0702 | 大学院生のキャリア支援、研究支援の一環として、博学連携教育を研究対象としている大学院生に対し、公益財団法人日本漢字能力検定協会との間で、同協会が運営する漢字ミュージアムにおけるミュージアムフィールドワーク等のインターンシップに連なる活動受け入れについて話し合いを進めている [0702d]。 |
| 長所・特色 <<箇条書き>> * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの | |
| 項目 No. 0702 | 外国籍学生に対するキャリア支援に資するインターンシップ活動に向けての外部団体との連携推進[0702c] |
| 項目 No. 702 | 大学院生に対するフィールドワーク、インターンシップに関する外部機関との連携[0702d] |
| 課題事項 <<箇条書き>> * 改善すべき点、向上すべき点 | |
| 項目 No. 0702 | 多様な大学院生に対応した、大学院生に対するキャリア支援の更なる充実 |
| 項目 No. | |

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

| | |
|---|--|
| 対象年度における取組 * 成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない | |
| 0702 | 多様なニーズを持つ大学院生に対して、それぞれに合ったキャリア支援を行う為に、関係諸団体の連携を画策し、組織的な研究科としての取り組みに向けて諸団体と関係構築をしている [0702c] [0702d]。 |

<今後の改善・向上計画>

| 項目 No. | 課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む） |
|--------|-------------------------|
| 0702 | 他団体と連携した組織的なキャリア支援体制の構築 |
| | |

2022 年度（対象：2019～2021 年度） 自己点検・評価シート

| | |
|--------|--------|
| 自己評価組織 | 教育学研究科 |
|--------|--------|

基準 8 教育研究等環境

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

| 項目 No. | 自己点検・評価項目 | 自己点検・評価の視点 | 自己評価 |
|--------|--|--|------|
| 0802 | 教育研究等環境に関する方針に基づき、必要な校地および校舎を有し、かつ運動場等の教育研究活動に必要な施設および設備を整備していますか。 | (1)教育課程の特徴、学生数、教育方法に応じた施設・設備の充実を図っていますか。 | A |
| 0806 | 教育研究等環境の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。 | (1)適切な根拠資料に基づく定期的な自己点検・評価を実施していますか。 | A |
| | | (2)自己点検・評価の結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。 | A |

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

| | |
|---|--|
| 現状説明 *「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。 | |
| 0802 | 大学院生研究室を設置し、図書文献やコンピュータ・プリンター等を学生が利用しやすいように配置している。また必要な図書文献や備品は院生費で購入できており、学生へのアンケートでは院生全員が教育研究環境に満足していると回答している [0802a] [0802b]。 |
| 0806 | 大学院 WG や指導教員が学生の研究室利用状況を確認、さらに設備・施設等に関する要望を大学院生から聞き取るなどして、必要に応じた改修・増備等を実施している [0806a] [0806b]。 |
| 長所・特色 <箇条書き> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの | |
| 項目 No. 0802 | 大学院生に院生費が支給されており、院生の要望を聞き取る定期的な面接活動を行い、大学院生が必要とする図書文献、設備の充実に取り組んだ。 |
| 課題事項 <箇条書き> *改善すべき点、向上すべき点 | |
| 項目 No. 0802 | 大学院生の研究志向に応じた、設備の計画的な更新(優先順位)と事業計画への申請 |

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果(【留意点】等)への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、

第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

| 対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない | |
|--|--|
| 0806 | 院生の要望を聞き取る定期的な面接活動を行い、大学院生が必要とする図書文献、設備の充実に取り組んだ [0802a] [0802b] [0806a] [0806b]。 |

<今後の改善・向上計画>

| 項目 No. | 課題事項と改善・向上方策 (到達目標を含む) |
|--------|--------------------------------|
| 0802 | 設備の計画的な更新 (優先順位) と事業計画への申請を行う。 |
| 0806 | 院生に対するヒアリングの強化を図る。 |

2022 年度（対象：2019～2021 年度） 自己点検・評価シート

| | |
|--------|--------|
| 自己評価組織 | 教育学研究科 |
|--------|--------|

基準 9 社会連携・社会貢献

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

| 項目 No. | 自己点検・評価項目 | 自己点検・評価の視点 | 自己評価 |
|--------|--|--|------|
| 0902 | 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していますか。また、教育研究成果を適切に社会に還元していますか。 | (2) 社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動を推進していますか。 | B |
| | | (3) 地域交流・国際交流事業への参加などに取り組んでいますか。 | B |

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

| | | | |
|-------------|--|--|--|
| 現状説明 | *「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。 | | |
| 0902 | 大学院生の人数が少ないために、組織的な社会連携・社会貢献活動の実施は難しいが、それぞれの院生の研究テーマに対応した形で行っている [0902a]。 | | |
| 長所・特色 | < 箇条書き > *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの | | |
| 項目 No. 0902 | 社会貢献を最終的な目的とした修士論文テーマの設定、テーマに関連するフィールドワーク、ボランティア活動の実施、研究成果の具現化による社会貢献、それに連続したインターンシップと就職、これらを実現するための関係団体と連携した学生支援 [0902a]。 | | |
| 課題事項 | < 箇条書き > *改善すべき点、向上すべき点 | | |
| 項目 No. 0902 | 多様な社会貢献を実現するための院生数の増加 | | |
| 項目 No. | | | |

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

< 改善・向上の進捗状況 >

| | | | |
|------------|---|--|--|
| 対象年度における取組 | *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない | | |
| 0902 | 学生・大学院生の問題関心と研究テーマ、そしてボランティア、インターンシップ、キャリアデザインと連続した社会貢献（日本語を母語としない外国籍生徒に対する日本語支援・学習支援に関するボランティア、インターンシップ、フィールドワーク） [0902a]。 | | |

< 今後の改善・向上計画 >

| 項目 No. | 課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む） |
|--------|---------------------------|
| 0902 | 多様な社会貢献を実現するための院生数の更なる増加。 |
| | |

2022 年度（対象：2019～2021 年度） 自己点検・評価シート

| | |
|--------|--------|
| 自己評価組織 | 教育学研究科 |
|--------|--------|

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

| 項目 No. | 自己点検・評価項目 | 自己点検・評価の視点 | 自己評価 |
|--------|--|---|------|
| 1120 | 管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。 | (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。 | A |

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

| | |
|--|----------------------|
| 現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。 | |
| 1120 教育学研究科の活動を推進する研究科委員会については議事録を作成し、持続的に安定した活動ができる体制を確保しており、大学院生の研究分野に対応した研究環境の改善・学修支援の強化がより実現されるように、業務の内容を不断に見直している[1120a]。 | |
| 長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの | |
| 項目 No. 1120 | 大学院生のニーズに対応した迅速な意思決定 |
| 項目 No. | |
| 課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点 | |
| 項目 No. 1120 | 会議資料等のデジタル化 |
| 項目 No. | |

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

| | |
|---|--|
| 対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない | |
| 学部教授会との連携を強化し、研究科の学生募集等について、多くの教員が意見を出し合う体制づくりが進行しつつある。 | |

<今後の改善・向上計画>

| 項目 No. | 課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む） |
|----------|-----------------------|
| No. 1120 | ペーパーレス化 |
| | |

2022年度 教育学研究科 自己点検・評価シート 根拠資料一覧

| 基準 (シートNo.) | 根拠資料No. | | 根拠資料の名称 | 提出 区分 |
|-----------------------------|---------|----|---|----------|
| | 項目No. | 記号 | | |
| 1. 理念・目的 (NF0101) | 0101 | a | 2021年度大学院学生便覧(教育学研究科 教育研究上の目的、DP・CP) | ○ |
| | 0101 | b | 教育学研究科 教育研究上の目的(大学HP) https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/aim_graduate_education/ | ○ |
| | 0101 | c | 教育学研究科 3つのポリシー(大学HP) https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_graduate_education/ | ○ |
| | 0102 | a | ポスター設置に関する資料(掲示風景写真) | ○ |
| | 0102 | b | 2021年度第6回教育学研究科委員会議題 | ○ |
| 2. 内部質保証 (NF0201) | 0203 | a | 2019年度(対象年度:2017~2018年度)自己点検・評価シート | ○ |
| | 0203 | b | 2020年度(対象年度:2019年度)自己点検・評価シート | ○ |
| | 0203 | c | 2021年度(対象年度:2020年度)自己点検・評価シート | ○ |
| | 0203 | d | 現代教育学部・教育学研究科自己点検評価活動について | ○ |
| | 0203 | e | 2019年度 学部等におけるFD活動評価点検報告書 | ○ |
| | 0203 | f | 2015年度 教職課程認定大学等実地視察について(文部科学省HP) https://www.mext.go.jp/b_menu/kengaku/index.htm | ○ |
| | 0203 | g | 実地視察大学等別報告書(中部大学) | ○ |
| 4. 教育課程・学習成果(1) (NF0401) | 0401 | a | 2021年度大学院学生便覧(教育学研究科 DP・CP) | ○ |
| | 0401 | b | 教育学研究科 3つのポリシー(大学HP) https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_graduate_education/ | ○ |
| | 0403 | a | 2021年度 教育学研究科新入生オリエンテーション配付資料 | ○ |
| | 0403 | b | 2021年度 大学院指導担当教員リスト | ○ |
| 4. 教育課程・学習成果(2) (NF0402) | 0404 | a | 関連授業シラバス例 | ○ |
| | 0404 | b | 学事カレンダー(2020年度・2021年度) | ○ |
| | 0405 | a | 成績報告について(2021年度春学期) | ○ |
| | 0405 | b | 2021年度大学院学生便覧(教育学専攻) | ○ |
| | 0405 | c | 中部大学大学院教育学研究科の学位に関する内規 | ○ |
| | 0405 | d | 教育学研究科修士論文提出要領 | ○ |
| | 0405 | e | 教育学研究科学位論文評価項目 | ○ |
| 4. 教育課程・学習成果(3) (NF0403) | 0406 | a | 2021年度第4回教育学研究科委員会議題・議事録、発表会写真 | ○ |
| | 0406 | b | 2020年度第4回&第7回教育学研究科委員会議題・議事録、発表会写真 | ○ |
| | 0407 | a | 2019年度 教育課程変更について | ○ |
| 5. 学生の受け入れ (NF0501) | 0501 | a | 2023年度中部大学大学院入学試験要綱 | ○ |
| | 0501 | b | 2021年度第10回教育学研究科大学院WG 議事メモ | ○ |
| | 0504 | a | 2021年度第1回現代教育学部教授会 議事録 | ○ |
| 6. 教員・教員組織 (NF0601) | 0602 | a | 教員組織 | ○ |
| | 0604 | a | 2021年度 教育学研究科FD&SD実施計画 | ○ |
| | 0604 | b | 2021年度学部等におけるFD活動評価点検報告書 | ○ |
| | 0605 | a | 2019年度(対象年度2017~2018年度)自己点検・評価シート | ○ |
| 7. 学生支援 (NF0701) | 0702 | a | 就職支援プログラム(2021年度版) | ○ |
| | 0702 | b | 2021年度学長表彰被表彰者一覧 | ○ |
| | 0702 | c | 地域多文化ネット「WKY」からのメール文 | ○ |
| | 0702 | d | 公益財団法人日本漢字能力検定協会山崎理事長からのメール文 | ○ |
| 8. 教育研究等環境 (NF0801) | 0802 | a | 2021年度院生費の手引き | ○ |
| | 0802 | b | 教育研究環境に関するアンケート結果 | ○ |
| | 0806 | a | 院生室図書リスト | ○ |
| | 0806 | b | 設備リスト | ○ |
| 9. 社会連携・社会貢献 (NF0901) | 0902 | a | 地域多文化ネット「WKY」からのメール文 | ○ |
| 11. 大学独自の評価項目 (NF1101) | 1102 | a | 2021年度 教育学研究科委員会議事録 | ○ |